

課題名：楽しみとやりがいの創発による認知症共生：
社会参加型創作教室プログラムに関する研究開発

代表機関／代表者：東京都健康長寿医療センター研究所／鈴木宏幸

分担機関：なし

研究期間：令和5年10月～令和8年3月

研究開発目的

- 認知機能低下者は日常生活で 失敗経験を積み重ね、それを契機に社会参加を抑制している可能性がある
- 日常生活や社会生活に対する自己効力感を高めることを目的として、成功体験を積み重ねる事が可能な『ものづくり』を題材とした**社会参加型創作教室プログラム**（本プログラム）を開発する
- 本プログラムの介入効果について軽度認知障害（MCI）と軽度認知症のそれぞれを対象した検証を実施し、社会実装に向けたモデル構築を行う

取り組み

- 本プログラムに関連する人材育成として、創作教室の指導者を対象に認知症共生に関する講習を実施し、専門のインストラクターを養成する
- 本プログラムに関連する教材として、技術や経験を含めた個人の能力に適した難易度に調整可能な創作キットを開発する
- 『失敗をさせない。成功体験と満足感を与える』、『できないことは手伝い、できるところは奪わない』という2点を満たす創作教室を実施する
- 教室後には自身の製作物を題材とした社会交流の機会を提供する

成果と今後の展開

- インストラクター養成および創作キット開発を完了した
- 創作活動を通した楽しみとやりがいが参加者の成功体験につながるよう、専門のインストラクターがサポートし、その効果を検証する。製作物を介在した社会交流も含め実装モデルを検討し、認知症共生社会に資する成果を得る

創作教室教材



難易度調整や
個人の好みを
反映できる創作
キットを開発



創作・交流：楽しみ
完成・贈答：やりがい

創作教室の様子



完成を
サポート

できないことは手伝い、
できるところは奪わない